

教育現場に「5S」の導入、徹底実践から「いじめ」解決を！（私見）

■ 1. はじめに

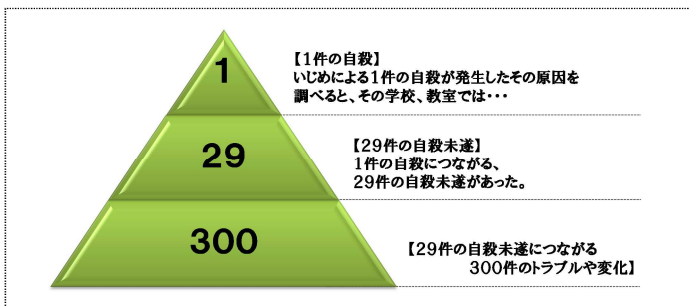
- 教育現場で「5S」活動を導入、徹底的に実践することで、教育環境の整理整頓だけではなく、教師、子どもたちの心のクリアリングにもつながり、それまで見えていなかった、気づけなかったものが見えてくるのではないのでしょうか。
- 教師は「5S」を通して子どもたちの日々の有り様や小さな変化が見えて来て、それに対応する。教育現場力、それを構成する教師力のレベルアップのために今こそ、教育現場に「5S」が必要ではないでしょうか。
 - ◇ 5S：整理／整頓／清掃／清潔／躰

■ 2. 事例

- ①割れ窓理論
 - ◇ 軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止できるとする環境犯罪上の理論。実際に1980年代アメリカ有数の犯罪多発都市であったニューヨーク市で導入され、地下鉄の落書きを一掃する等の種々の取り組みから始め、5年間で殺人が68%、強盗が54%、婦女暴行が27%減少した(ウィキペディアより一部引用)。
- ②日本企業の例
 - ◇ 日本の高度成長を支えたものづくり(自動車や家電等のメーカー)では、5S活動を徹底することで、日本製品の品質の高さを世界に知らしめ、「メイドインジャパン」ブランドが生まれた。
- ③NPO法人「日本を美しくする会」(掃除に学ぶ会)
 - ◇ イエローハット創業者の鍵山秀三郎氏の掃除哲学をもとに、掃除という市民活動を通じ環境美化に努める団体。学校での素手、素足でのトイレ掃除(生徒が荒れている学校は校内も荒れていて、特にトイレが汚い。そこを徹底的に美化することで心の荒れもなくなり、その学校が落ち着く運動)が有名。

■ 3. 事例からのいじめ問題への展開

- ハインリッヒの法則(労働災害における経験則の1つ。1つの重大事故の背後には29件の中災害があり、その背後には300件の微小災害が存在するというもの)に、「いじめ問題による自殺」を当てはめてみると・・・



学校や教師は1件の自殺を防止するためには、29件の自殺未遂につながるような300件のトラブルや変化に気づき、常に対応することが必要である。

⇒それに気づくために「5S」が必要ではないでしょうか。

【実際のデータ】

・2011年小中高自殺者数:200名(※文科省調べ)

・2011年小中高のいじめ認知件数:約7万件(※)

⇒2012年4～9月の半年でのいじめ認知件数:約14万件(※)

⇒内閣府「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」(2010年)によると、ひきこもりは約70万人とされており、

その中にはいじめや虐待等が原因のものが多くあると推察される。

■ 4. まとめ

- 2010年3月22日 産経新聞「正論」筑波大学名誉教授 村上和雄氏のお話より引用。

世界20カ国の青少年に「先生を尊敬しているか」と質問したところ、「はい」と答えた割合は、韓国、アメリカ、EU(欧州連合)の80%以上に対して、日本はわずか21%で最下位である。

19位の国ですら、70%が「はい」と答えているのに、20位の日本は、恐るべき最下位である。

また「親を尊敬するか」の問いには、世界の平均は83%なのに、なんと日本では25%だ。

- 現状の教師や大人たちの人間としてのあり方を子どもたちが見て、そのように感じている。
- 徹底した5Sを通して、「率先垂範」をキーワードに、子どもに対して教師が模範になり、教師については学校長がリーダーシップを示し、学校長に対しては教育委員会が支援をし、教育委員会に対しては・・・という形で、児童、生徒たちと共に大人が、教師が、親が範を示す地道な活動が大切。
- 5Sは日本が生んだ「文化」であり、世界に誇れる仕組みです。そのことに取り組むことで、いじめ問題を含め、日本の教育が抱える諸問題の解決の糸口になると確信しています。究極の未然防止、再発防止になるのではないのでしょうか。